

新年

年頭の ごあいさつ

若い人の

力に期待



関川村長
平田大六

あけましておめでとございませう。村民の皆さまにおかれましては、それぞれのご家庭などで、新しい年を迎えられたことと拝察いたします。昨年暮れの選挙で、三たび村政を担当させていただくことになりました。七千人村民の皆さまの声にいつそ耳を傾けてまいります。

二〇〇三年春に、関川村が合併せず自立の道を進みはじめて八年目をむかえようとしております。限られた財源のなかで、工夫しながら歩みつづけてまいりましたのも、村民の皆さんの深いご理解・ご協力のたまものであり、お礼申しあげます。

四月から「関川小学校」を開校さ

せていただきます。念願の新校舎は、昨年十二月に無事竣工いたしました。二回にわたり、村民の皆さまに見学していただきました。単純（シンプル）な構造とあたたかい雰囲気、好感をもたれた方々がたくさんおられました。新校舎は、「水にも強く」ということで、四十二年の水害レベルまで一階床を上げてあります。古い校舎は、国との約束で、年度内にとりこわしとなります。このため、関小学校の児童は、三学期から新校舎を使用します。今後は、プール建設、グラウンド整備をいたします。これからは、全村ひとつの学区になった学校から各地域へのきずなを太くしてゆくことを関係の方々にお願いしてゆきます。

少子高齢化がすすんでおります。人口減少に少しでも歯止めをかけるための定住対策も重要課題です。近年、村内空き屋に都会からのニューファミリーの住みつきが数例あり、その仲間へよびかけがはじまっております。このきずなを大切に、PRをしてゆきたいと思っております。

新しい年は、この関川村を安定して未来にひきついでいくために、若い人の力が発揮できる「場」づくりの年にもしたいと思っております。

新しい年が皆さまにとりまして、よい年になりますことを祈念いたします。

今年

寅年



今年寅年。虎は干支の三番目、インドネシアや中国、ロシアやその周辺国に生息する食肉目ネコ科の動物です。ライオンが「アフリカの百獣の王」なら、虎は「アジアの百獣の王」といったところでしょうか。

日本列島に野生の虎はいません。虎は干支の動物たちのうち、日本に棲んでいない唯一の動物です。もともと、辰（竜）もいませんが、これは想像上の動物ですからどこにもいません。生きた虎が日本に来たのは、平安時代の八九〇年といわれ、その後、江戸時代には、虎は見せ物として江戸や大坂（大阪）などを回っていたようです。多くの人が虎を見られるようになったのは、動物園が普及するようになってからです。しかし、虎はことわざにもよく登場し、昔から親しまれていました。虎は強いもの、恐ろしいものの例えによく使われます。「虎視眈眈」は、虎が獲物を狙って鋭い目でじっと見下ろすさまからきています。「虎の威をかる狐」は、他人の力を利用して人々を圧したり脅したりすること。「虎の尾を踏む」は、極めて危険なこと例えです。「虎は千里行つて千里帰る」も、虎は一日に千里行つて、また、その千里を戻ってくるができるということから、一般的には

賀 謹

学校跡地の

有効利用を



関川村議会議長
高橋 八 男

新年あけましておめでとうございます。村民皆様には、健康で希望に満ちた初春を迎えられましたことをお喜び申し上げます。

昨年の衆議院選挙で民主党政権が誕生し、世の中で色々と論議を巻き起こして現在にいたっております。夏の甲子園全国高等学校野球大会では、関川中学校出身の伊藤君、若林君のバッテリーで日本文理高等学校を準優勝に導き、大きく関川村を全国に宣伝してくれました。小学校の統合関係では、十一月二十八日には関川小学校の閉校式、十二月六日には関川小学校の竣工式が行われ、大勢の来賓の御臨席のもとで無事終了する

ことができました。また、十二月二十日に村長選挙、村議会議員補欠選挙もあり、大変慌ただし暮れでした。

来年度（二十二年度）四月より、五つの小学校統合により、関川小学校が開校します。以前から教育委員会が計画していました、一小学校、一中学校となり、安心して子育てが出来る教育村が実現されます。今後、閉校する学校の跡地利用は色々あると思いますが、各地域で意見を出し合い、後ほど後悔の無いようにして頂きたいと思います。このほか、観光や農業、少子化、高齢化、医療、スキー場と色々な問題が山積しています。これらの問題を一つひとつ解決していかねければ、良い村、関川村とは言えないと思います。理事者や議会、村民が一体となり頑張っていくたいと思いますので、宜しくご協力をお願い申し上げます。また、若年層の流出から高齢化と過疎化が続き、これらを打開するためには、若人にも十分に魅力のある活力あふれた地域社会を実現することが、何よりも肝要であると思います。

新年を契機に、相ともに心を新たに、村民の皆さんが関川村を誇りとして、村に住む喜びをかみしめることができるような魅力ある「むらづくり」の実現を目指して、一層精励されることを切望しまして、新年のご挨拶といたします。

”勢いの盛んなこと”の例えとして用いられますが、別の解釈もあるようです。虎は何をきに、千里の道をあわてて帰るのでしょう。実は、虎は自分の子どもが心配で戻るのでないかということです。恐ろしいものの代表のようにいわれている虎ですが、とても子どもを大切に思うそうです。

誰もが知っている「虎の子」という言葉も、このあたりからきたのでしょうか。「虎の子」は、虎が子どもを大事に守り育てるところから、大切にして手放さないもの。秘蔵のものという意味。「虎穴に入らずんば虎子を得ず」とも、虎の子が貴重なものという意味から、「虎の住むほら穴に入って行く危険を冒さなければ、虎の子を捕獲することはできない」。つまり、身の安全ばかり考えていたのでは、目的を達成することはできないということ。

「虎刈り」は、丸刈りが流行らなくなったので、使われることも少なくなりました。「虎の巻」は、もともとは兵法の秘伝を記した書物のこと。転じて、芸道の秘事、秘伝の書。以前は、学生などが教科書の内容を解説した本のことをこう呼んでいましたが、この言葉も、最近は何となく聞かなくなりました。

さて、二〇〇九年は皆さんにとって、どのような年だったでしょうか。大きな出来事としては、新型インフルエンザの流行や、政権交代が挙げられますが、これらの出来事は、二〇一〇年も大きな話題となりそうです。

何事も、虎のように威勢よくいきたいところですが、子どもを大切に育む虎のように、みんなで仲良く、健康に過ごしたいものです。